

# 次期中間処理施設整備事業の用地選定に関する意見書

平成25年9月22日提出

ごみ処理基本計画検討委員会 委員 岡野三之

## 敷地選定についての参考意見

前印西地区次期中間処理施設整備検討委員会での敷地評価では住民を納得させる十分な検討がなされていたとは思えません。液状化の可能性が高い地盤に満点評価したことが計画を白紙撤回にまで発展させた理由の一つと言えます。それらの経緯を踏まえるとともに、その後の東日本大震災での地盤崩壊や、数十年に1度といわれる豪雨が多発している現状を考慮した敷地選定。また、強靱で**防災拠点化**（災害時に市役所、消防、警察、病院等への電力供給確保）が期待される施設の敷地選定についての参考意見を申し述べます。参考にしていたら結構に存じます。

### ■ 防災拠点の敷地選定にあたり留意すべき事項

1. 正確な敷地情報（印西市、白井市では50mメッシュの防災マップ、栄町は県資料）を採用しそれに基づき評価する
2. 災害時にがけ崩れや敷地崩壊の可能性のある崖地等や斜面盛土敷地はさける。
3. 集中豪雨による洪水や土砂災害の恐れがない標高とする。
  - ・例 印西市洪水(利根川)・土砂災害ハザードマップの使用
  - ・アクセス道路も浸水しない道路を最低一本確保する。
  - ・例：木下地区消防署の移転計画進行中
4. 軟弱地盤（沖積地、湖沼の埋立地）は避けるか評価を下げる
  - ・軟弱地盤は地震力が増幅されるが建設は可能。地盤改良や杭等でコストアップとなる。  
例：印西市役所（軟弱）とTNC（良好）との計測震度差で確認（東北震災時）  
\*計測震度：地震計に記録される震度で気象庁発表震度より5倍の精度
5. 液状化の可能性が高い敷地は避けるか評価を下げる。  
液状化を考慮した設計で建設可能であるが、コストアップになるので評価を下げる。また、液状化の可能性のある地盤は軟弱地盤でもある。

以上